

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	株式会社日出ハイテック
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>NTT一社にのみ(あるいは電力会社)に予算をつけて整備させるが、仕切値は国から適正価格を示す。未整備エリアは投資効率が悪い過疎地域であり、基盤事業と利用事業との一体方式は無駄の根源。</p> <p>携帯電話のでたらめ策(採算性の上がる地域にドコモ、SB、au、MCAのアンテナが林立する反面で過疎地には1本のアンテナもないような無策では通信費は安くないばかりかグローバルサービスも実現できない)</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>基本的に通信インフラ整備は道路と同じで国が一元化してNTT(あるいは電力会社)に委託すべし。但しNTTにはインフラを利用する技術提供は必要に応じ適正価格で通信事業者に公開させるが、利用事業には参入させない。KDDIは完全に民営化商業主義企業であるので、単なる一通信事業者として特典を与えない。このことにより複数の過剰インフラ投資を省き、浮いた資金をグローバルサービスを条件として、各事業者で公正に競わせ再投資。国策としてNTTのみを通信インフラの整備と保守及び利用技術研究開発に特化させるが、利用事業は一般民間事業者に公正競争させることで、投資効率と投資効果の両立を目指すべき。</p>